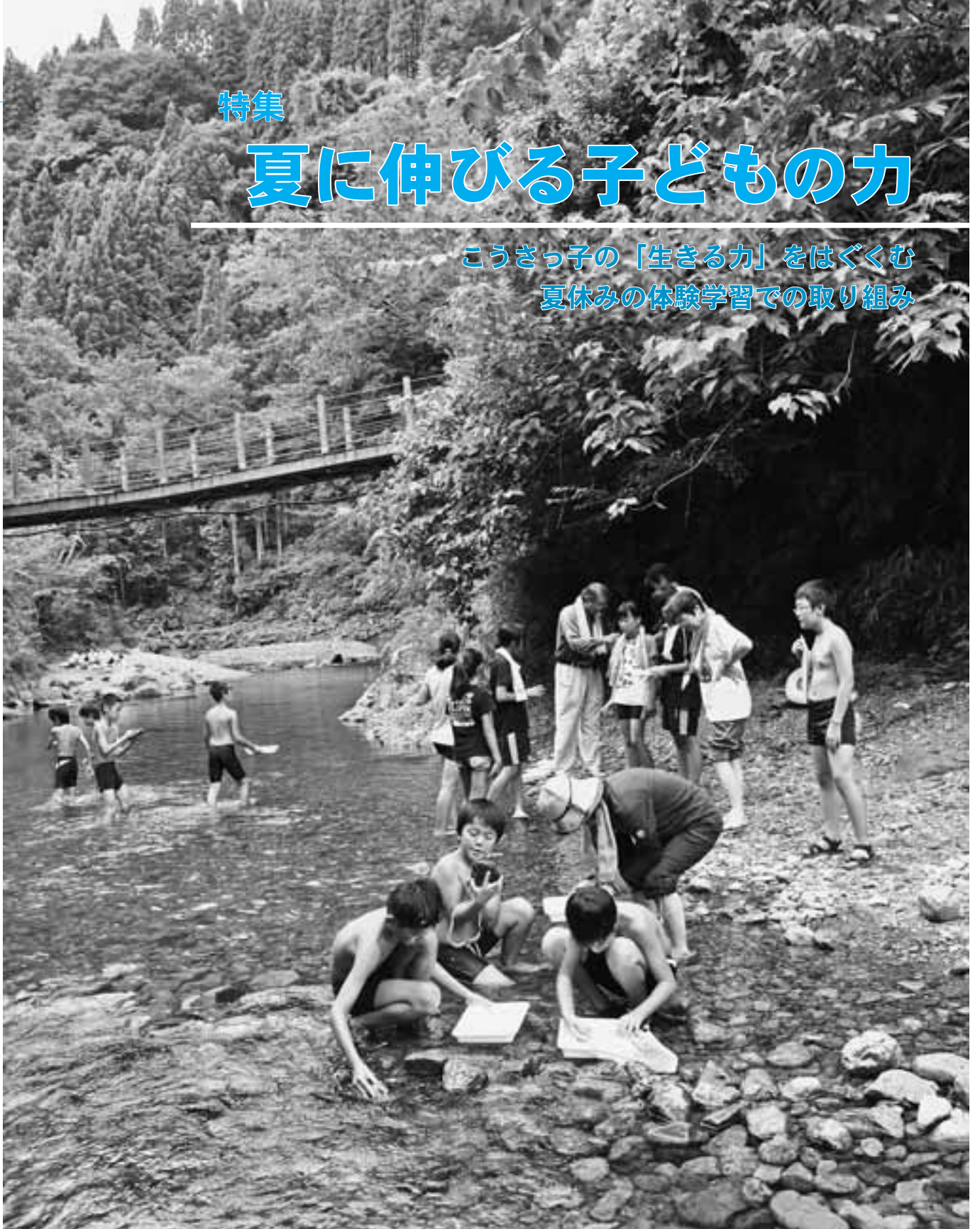


特集

夏に伸びる子どもの力

こうさっ子の「生きる力」をはぐくむ
夏休みの体験学習での取り組み



豊かな自然とともに生きる力

こうさ環境子ども探検団

緑川の豊かな自然に、心と体と知識で触れ合うことで
自分たちを取り巻く自然環境の大切さを知る

夏に伸びる
子どもの力

第1章

緑川の自然に触れ合い 環境に関する意識を高める

町教育委員会が進める緑川環境教育の一環として取り組む体験学習「こうさ環境子ども探検団」。豊かな自然との触れ合いを通して、環境についての問題意識や自然保護への関心を高めることを目的に実施しています。

小学4年生から中学生までを対象として8月17日（火）に行われ、今年で15回目。講師に、熊本県自然観察研究会の小林修会長を招き、小・中学生15人が参加しました。

石橋や農業用水路を調べて 緑川の歴史と役割を学ぶ

今回の探検団は、初めに美里



緑川に生息する水生生物を捕まえて、講師の小林さんと一緒に観察。生息する生物の種類や生態について調べることで、緑川の自然環境の現状について考える



川底の石を手に取り裏返して、石の裏などに生息している水生生物を捕まえて、その生態などを調べる

緑川の気温や水温などを計り、自然環境の状態を検査する

静かに目を閉じて、耳を澄ませ、川のせせらぎや野鳥のさえずりなど、自然の中で聞こえる音を聞く



町の霊台橋を訪れ、次に山都町の円形分水公園を見学。緑川流域で暮らす人々の歴史について振り返り、石橋や農業用水路などに活用されているのかということとを学びました。

快適な水環境である緑川で 五感を働かせ自然を感じる

続いて探検団は、緑川上流の「青葉の瀬」キャンプ場を訪れ、緑川の水質調査や水生生物の生息調査を実施しました。

水質調査では、水温を計り水の透明度を確認した後、水質検査試薬などを使って成分を調査。生息調査では、水中や石の裏な

どに手や網を入れて水生生物を採集し、一覧表と照らし合わせて名前や種類を確認しました。調査の結果、水の成分は正常で透明度も高く、カワゲラなどきれいな水環境に生息する生物が確認できたことから、調査地点は快適な水環境であるということが分かりました。

調査の後には、目を閉じて聞こえてくる自然の音を当てたり、川の中に石を並べて自分たちでせせらぎの音を作ったりするネイチャーゲームや川遊びなどを通して緑川の自然と触れ合い、団員たちは、五感を通して水の楽しさを満喫しました。



自分の五感を働かせて自然と触れ合うことで、
脳を刺激し活性化させて、「生きる力」となります。

熊本県自然観察研究会長

小林 修 さん



水との触れ合いを体感・体験して慣れ親しむことにより、自然を大切にしようとする心が育ちます。川の虫と触れ合うことによって、川の中にもいるんな生き物がいることを知り、小さな命を大切にすることが生まれてきます。自然と向き合うときには、自然に対して畏敬（いけい）の念を持つということがとても大切です。

自然と触れ合うことは、五感を働かせるので脳に刺激を与えます。嗅覚、聴覚、視覚、触覚、味覚を実際に使って、水の音や色、セミの声などを体感して脳は記憶するので、その体験をすぐく忘れないのです。言い換えれば、五感を使ってコミュニケーションを築くことがとても大切なのです。だからこそ、自然は、人間にとって「心のホスピタル」と言えると思います。